

安全と環境を考えるニシオの広報誌

1999 Vol-4

安全くん

40

甘えと思い込み。若者特有の
「こんなもんだ」は事故の元」の巻



●表紙の写真はフランスで撮影されたものです。

インターネットホームページ
『安全くんネット』も御覧ください。
<http://www.nishio-rent.co.jp/anzenkun/>
〈この広報誌は、再生紙を使用しています。〉

これ行け!! 安全くん

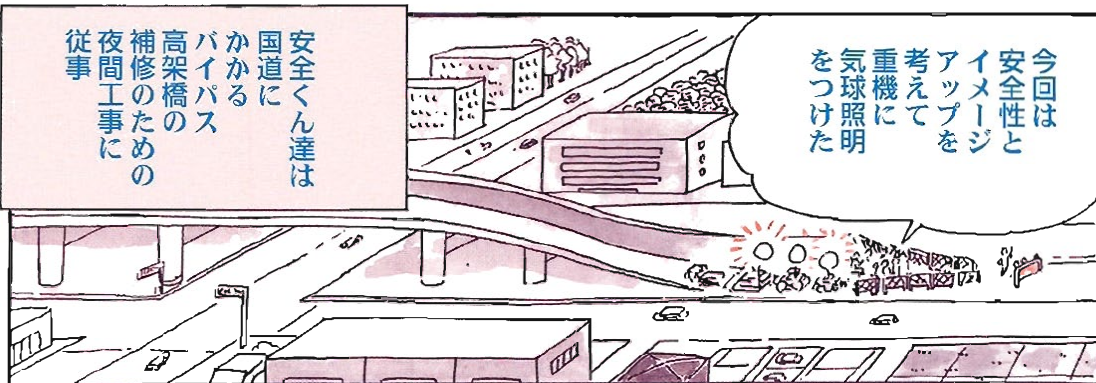
画 中村よしのぶ

「甘えと思い込み。
若者特有の‘こんなもんだ’
は事故の元」の巻



安全くん達は
国道に
かかる
バイパス
高架橋の
補修のため
の夜間工事
に従事

今回は
安全性と
イメージ
アップを
考えて
重機に
気球照明
をつけた



ほう
機械と一緒に
移動して
その回りだけが
明るいと
いう
ことじゃな
い
運転も
しやすい
そうだ



へえ
これなら
ライトが
まぶしいという
苦情も
出ないでしょう



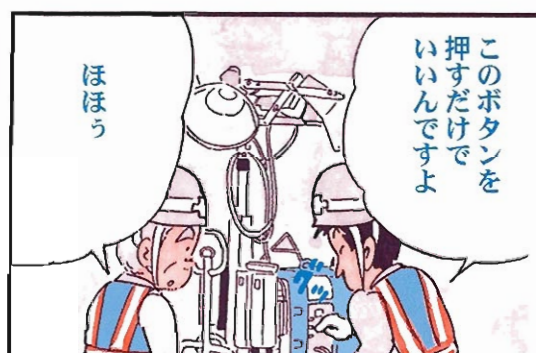
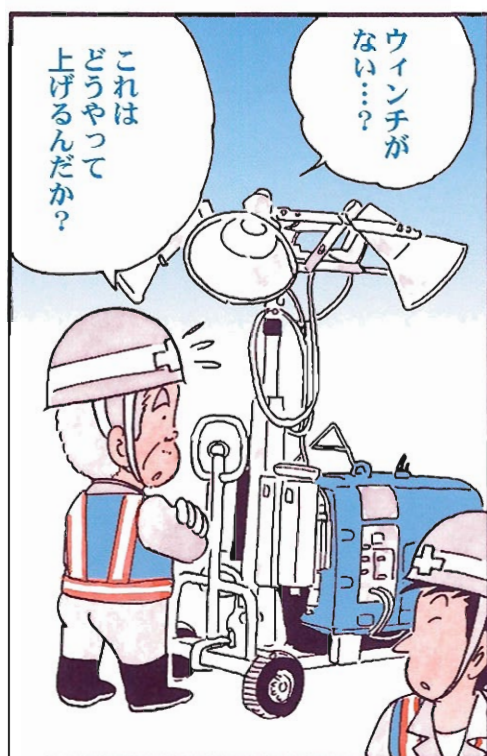
オレなら
夏のイベントに使うな
月のように雰囲気も
盛り上がるぞ!



そうだ
上下左右
全体を
明るくして
くれる

これなら
屋内の工事に
使えるんじゃないの?





解説コーナー

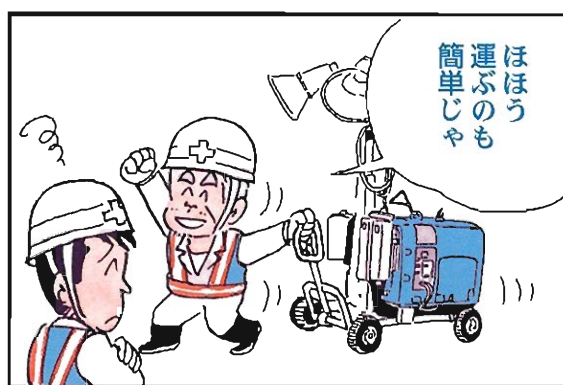
重機の死角

道路工事ではローラなどに作業員が轢かれる事故が後を絶ちません。作業員の立場から危険性を見ますと……

①見た目より重機の死角は大きい。②ローラのスピードが意外に速い。③突然に前後進する。④近づくと機械音で、周辺の音が聞こえない。⑤舗装面に注意が向き、機械の発見が遅れる。等々…

◇機械の前後は危険なことは重々承知していても、つい運転者の死角で作業をしたり、横切ったりしてしまうことが多いようです。また、運転者も死角の範囲は注意していても、作業員との意思の疎通、作業員の認識不足、誘導・監視員のミスなどで予期せぬ状況が発生することが多く、いかにミラーを付けて死角をカバーしても、一度に全てをチェックをしながら、とはいきません。

◇作業員さんを一度重機の運転席に座らせ、他の作業員さんに機械の周囲を動いてもらって、死角に入ることの恐ろしさを実体験させてあげてください。ことばよりも身体・感覚で理解を！



ダンブを先頭に
アスファルト
フィニッシャ
マカダムが連なり
タイヤローラが
少し離れて
動いている



ミニテラスターの
位置が
最初のままで
角度も
変えていないので
若井くんの所が
やや暗くなつてきた

解説コーナー

夜間作業の憂鬱！

～互いに呼びかけることで、意識も明確に～

意識レベルの低下でミス発生

人間は外部から刺激を受けて脳が働き、“意識”もハッキリとした状態を維持していくものですが、夜間は目や耳から入る刺激が少なく、作業も単調になりがち。当然、眠気も出ますし、意識も“ボンヤリ”。動作も緩慢になり不安全な状態・行動も「危険」を感じないような恐ろしい状態に。

意識をハッキリさせる方法として

夜間工事でも、自分で意識レベルを高めるため同じような努力をされていると思いますが、できれば作業時間を明確に区切り他のメンバーと会話（打ち合わせ・確認など）する時間を持つこと（声を出させる）。

危険な個所や重機の周囲の明るさを保つこと（ハッキリと見える状態）。そして一人作業は極力避けることなど、監督者が工夫することで各自の努力を一層効果的にすることが可能です。

特に、効果があるのは名前を呼びかけることです。騒音の中でも自分の名前が呼ばれると、不思議と聞き分けるもので、その時意識も明敏になっています。

「静かに整然と」というのも重要ですが、各自の安全のために、声を掛け合うことも大切な安全活動です。

◇こんな、人間の心理も考えて安全活動に取り組むと、日常生活の中にもいろいろとヒントがあるようです。



ガンさんのワンポイントレッスン

「若いメンバーの自主性を育むために」

1) 「常識とやる気」がない若者達？！

今回のストーリーにある若井くんの例は、「自分がやらなくて済むように理屈をつけ、責任を回避しよう」としたところが問題です。つまり、自分がやったことで失敗し叱られるよりも、気づかないことを指摘されることの方が「自分を傷つけない＝自分は悪いことはしていない」という「逃げの理屈」なのです。



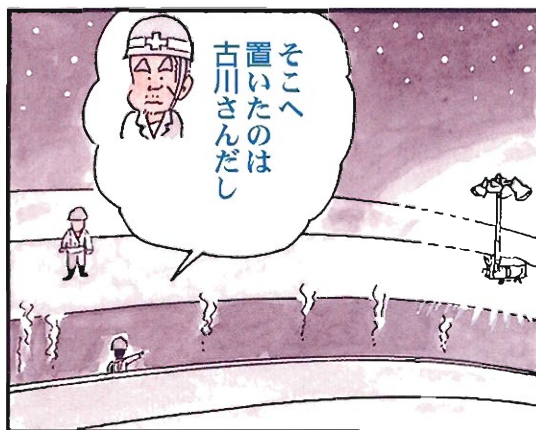
2) 「わかっている」がアクションを起こせない現実

これは「余計なことはするな!」とか、「〇〇をしてはいけない」という「禁止」のパターンで教育された人間が、陥りやすい心理状態です。(あなたもやっていませんか?)
しかし、内心「〇〇した方がよいかな?」と思っている若者も多く、これをアクションに結び付けられない心の壁を、大人達が作ってきたのかも知れません。

3) しっかり話し合える環境づくりから！

建設現場では、自分のために、周りの人のために必ず守らなければならないルールがあります。ダメなことと、やって歓迎することなど、きちっと説明すればわかるはず。そして、自分の意見も言わせ、納得させる努力が必要です。そのためには、日頃のコミュニケーションが大切。(ただし、教訓おやじにならぬよう。また、プライバシーを大切にす彼らの流儀もお忘れなく…。)

同じやるのなら楽しくやろう! この考えをお持ちでしたら、きっとあなたの気持ちは伝わります。



断ち消え!はトラブルの予告。～ミニテラスター使用上の注意～

夜間工事で活躍する投光機ミニテラスター。人にやさしいカクテル光線や便利な機能も、使い方を誤ればその能力も十分に発揮できません。今回は、現場でのトラブル防止のポイントを覚えましょう。

■ミニテラスターのトラブル防止ポイント

●不意なランプの断ち消えは理由がある。

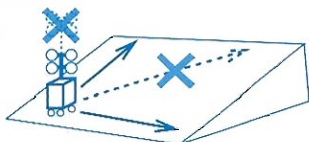
搭載発電機の燃料が少なくなり、ガス欠寸前になると電圧が降下し、安定器が不安定になりランプが消えます。一旦エンジンを切り、燃料を補給、再始動すれば、点灯可能です。始業前には、燃料・オイルの確認をお忘れなく。

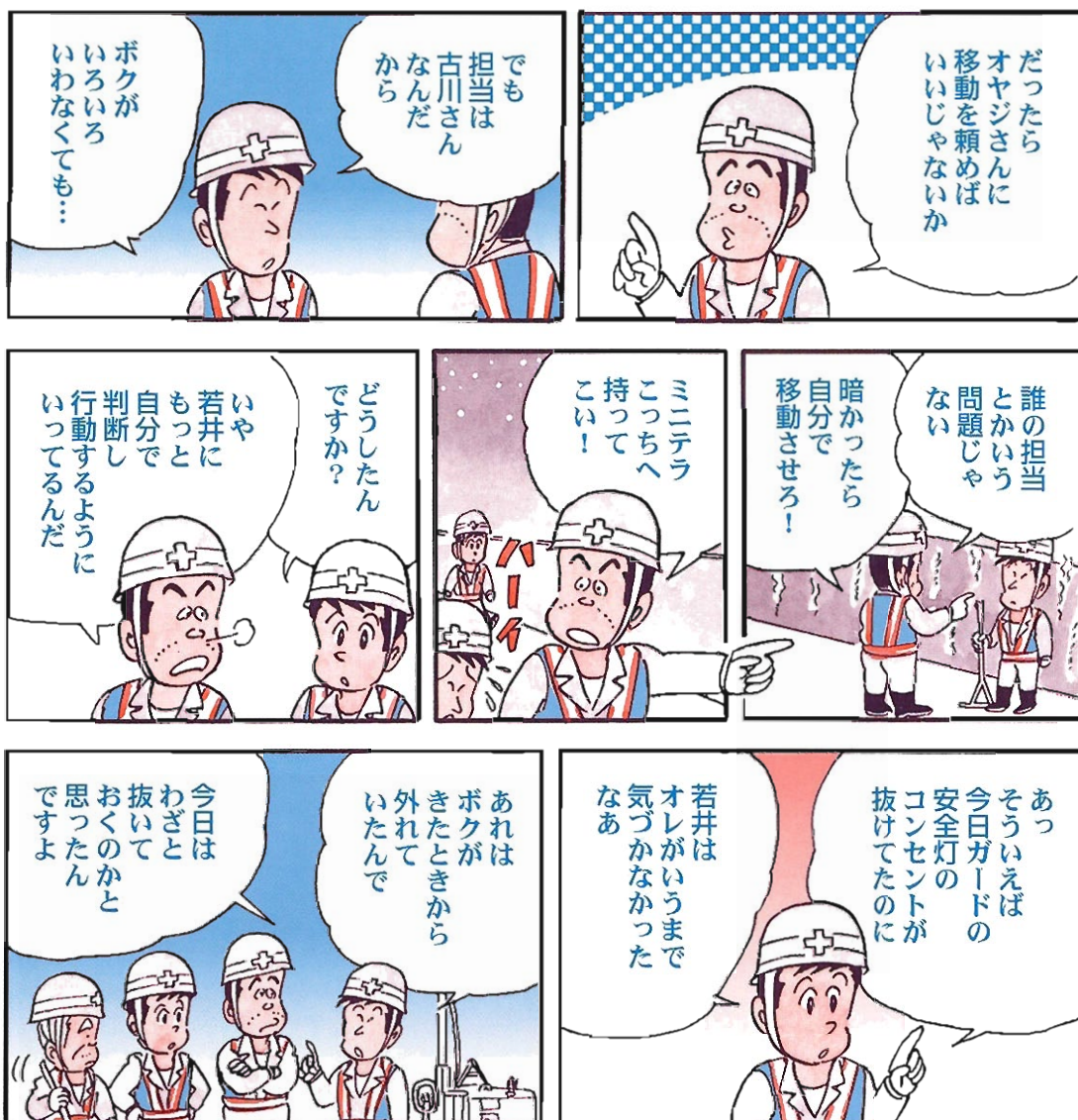
●ランプが点灯しない!

ライトを消してすぐの再点灯は、球が一旦冷めるまでの時間を要します。また、発電機は始動後、メーターで電圧を目視してから投光器のスイッチをONにしてください。

●傾斜地での注意

傾斜地で使う場合、ブレーキと坂下側に輪止めを必ずしてください。傾斜地を斜めに横行したり、ポールを伸ばした状態での移動は転倒する危険があるのでやめましょう。





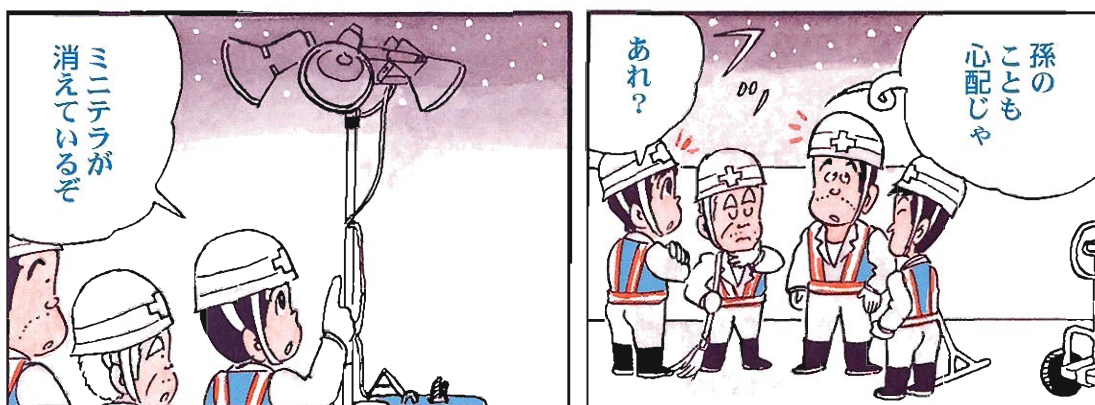
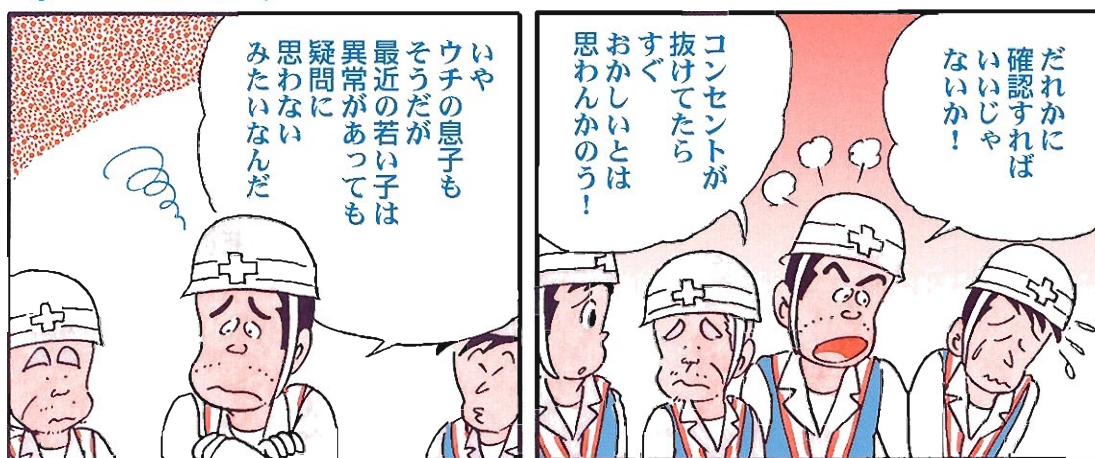
解説コーナー

交通災害をいかに防ぐか

～通行車両の立場から危険を告知する～

- 道路工事での災害で一番大きな被害となるのが、作業中に一般車両が突っ込むという事故。作業する立場からは「しっかり標示板を見るよ!」となり、ドライバーの立場から見れば「こんなところで、工事をするなんて、危ないじゃないか!」ということになります。
- 結局、「工事中であることをドライバーに早く正確に伝え、徐行運転してもらえるように対策をとる」ことにつきます。そのためには、決められた通りの看板の配置だけではなく、その道の状況に合った告知方法を**実際に通行してみても考える**必要があります。スピードを出しやすい場所、カーブ・坂道を越えたところなど見通しが悪いところ、右左折が多い交差点の付近など、相当手前から告知しておき、余裕をもって作業スペースを確保しておかねばなりません。
- ニシオでは、安全標示板を載せた車両に衝突緩和装置（衝撃吸収防護体）＝「タフバリア」を取り付けた工事規制用の車両をレンタルしています。





現場照明の新しいカタチを提案。360度全方向型の気球照明ルミエアー

新しい照明方式のルミエアーは、エアーで膨らませたバルーンにライトを内蔵した照明機器。光は360度全方向を明るく照らします。すでに海外では救助活動や屋内外の各種イベントから夜間工事現場まで幅広く活躍している商品です。

■商品チェック

- ライトは照射面をガラスでなく特殊繊維によるバルーンにすることで光が和らぎ、影や熱を局部に照射することなく光が満遍なく広がります。
- 本体は完全防水仕様なので屋外でも安心してご使用いただけます。また、本体は軽量コンパクトな折り畳み収納式なので、どこでも設置から移動、撤去が簡単です。

【主な仕様】

ルミエアー：850LAH〈ハロゲン仕様〉、電源：100V/1kW、照射面積：800m²、外形寸法：直径0.85m、有効高度：4.2m、耐久風力：22.2m/S (●直径1.350m/m (アーケライト) タイプもあります)

